

くしろ



釧路東部地区指導農業士・農業士会

浜中町、厚岸町（釧路町1名含む）の指導農業士14名、農業士11名で組織しています。新規参入者や新規参入予定の研修生の悩みや、就農における課題の共有と交流を図ることを目的に「新規参入者交流会」や、会員相互の研鑽のための「研修会」等を行っています。また、会議等で地域の農業振興について提言したり、農業大学校の学生や企業の職員などの研修を積極的に受け入れ、地域農業の活性化及び担い手育成に尽力しています。

（写真上2枚：平成30年度新規参入者交流会 下2枚：平成30年度夏期研修会）

	所在地	電話・FAX	Eメールアドレス
釧路農業改良普及センター本所	〒088-2313 川上郡標茶町常盤8丁目5番地	Tel:015-485-2514 Fax:015-485-2249	kusirokita-nokai.11 @pref.hokkaido.lg.jp
釧路東部支所	〒088-1365 厚岸郡浜中町茶内橋北東31番地	Tel:0153-65-2021 Fax:0153-65-2037	kushiroto-nokai.11 @pref.hokkaido.lg.jp
釧路中西部支所	〒084-0917 釧路市大楽毛127番地	Tel:0154-57-8306 Fax:0154-57-4702	kushirochu-nokai.11 @pref.hokkaido.lg.jp

ホームページアドレス: <http://www.kushiro.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

重点活動の紹介(東部支所)

リノベータで草地をリフレッシュ

牧草の収量を確保するために「次の草地更新までの間に何か手を打ちたい」と考えていた重点地域(厚岸町若松・糸魚沢地域)の農家が、4月に経年草地にリノベータによる施工をしました。2月の重点地域懇談会にて草地の収量確保をテーマに話し合った際、過去にリノベータを使い効果があったという他の農家の方の話が今回の施工につながりました。

リノベータは、①地中に切れ込みが入るため草地の透排水性が向上し、少雨・多雨への



施工の状況

耐性が高まる ②ルートマットを切断し新しい根や茎の発生を促す効果があります。



切れ目から新芽が発生(施工22日後)

当日は、JA釧路太田所有の機械を借り、約4haを3時間強かけ施工しました。1番草収量を調査すると、施工区では未施工区に比べ生収量で36%上回っていました。農家の方も「3~4年おきに施工したいな」と効果を実感されていました。

今回の取組が他の地域にも広まるよう情報発信を進めていきます。

地域の話(中西部支所)

(株)M&Sで安全祈願祭開催(白糠町)

今年8月、(株)M&Sの搾乳関連施設建設地において、安全祈願祭が行われました。

(株)M&Sは、F-SEED(TMRセンター：構成農家11戸)を母体に「TMR活用による新たな酪農生産体系」について検討を重ねてきた結果、構成農家4戸が設立した協業法人です。

M&Sの由来は、ミルク&白糠の頭文字です。その名の通り白糠町の生乳生産力向上も期待されています。



安全祈願祭で挨拶する澁谷代表

搾乳ロボット6台を含む施設は、畜産クラスター事業を活用します。また、F-SEEDの隣接地に建設することで、お互いのメリットを活かし、効率的な経営と生産基盤の強化を目指しています。



搾乳ロボット視察の様子

(株)M&Sでは現在、令和3年の生乳出荷開始に向け、施設や運営についての検討会や研修会を開催し、準備を進めているところです。普及センターは関係機関と共にこれらの活動を今後も支援していきます。

活動の紹介 フロストシーディング導入条件を調査

フロストシーディング（以下、FS）とは、温度条件が牧草の発芽条件に適さない初冬時期には種し、種子の状態越冬させて翌春の融雪後に牧草を発芽・定着させる方法です。

そのため、農閑期である11月に牧草の種作業を行えることから、作業の分散と余裕を持った作業が実施できます。

しかし、①FSの手法 ②牧草の定着などを疑問視する声もあり、確立された技術では無いとの意見もあります。



FS実施ほ場にて牧草の定着を確認



雪印種苗よりFSの事例紹介（H30年度）

そこで普及センターでは、平成30年度から現地の事例を収集し、FSの手法および導入条件などを調査しています。調査は継続して行っており、今年度は完全更新だけではなく、FSでの追播事例や管外の事例を調査し、地域に適した手法を検討していく予定です。

これまで分かっているFSの導入条件について詳細を知りたい方は、普及センターまでお問い合わせください。

推進事項の紹介 標茶高校にて初の意見交換会

指導農業士・農業士釧路地区連絡会議（工藤均会長）は5月に標茶高校で春季研修会を開催しました。

農業高校として長い歴史を持つ標茶高校ですが、現在は生徒の9割が非農家出身となっています。農業分野を志す若者を増やせないかと、昨年から校内行事に会員を派遣する活動に取り組んでいます。

今回は校内の牛舎や農業実習施設を見学した後、校長から教育指導要領で求められる農

業教育の現状と高校の取組を学びました。

意見交換では生徒のプロジェクト学習や農業分野への志望者確保に向けた連携を話し合い、数々のアイデアが挙がりました。参加者からは「教育を校内で完結せず地域と連携していけると実感した（教諭）」・「次は生徒と交流して農業への関心を高めたい（農業者）」などの声が挙がり、高校と指導農業士・農業士との連携に弾みがつく一日となりました。



育苗ハウスで教育の現状を学ぶ参加者達



教諭と指導農業士・農業士が意見交換

乳質改善の基本、衛生管理で体細胞数削減！ (標茶町)

体細胞数に影響を及ぼす要因は多岐にわたりますが、基本となる衛生管理が最も重要です。「ミルカー装着・離脱」などの搾乳手法にこだわりすぎていませんか？

今回は、搾乳手法は変更せず、乳頭清拭のみ改善して体細胞数が削減した農場の事例を紹介します。

[他地区の事例 ～体細胞数が低い農場が正しい搾乳方法とは限らなかった～]

表 1 搾乳立会時の調査点数項目別集計

調査項目	14戸 平均	体細胞数ランク別		差
		[高]平均	[低]平均	
調査項目全平均	2.33	2.06	2.70	0.63
衛生管理	2.29	1.94	2.75	0.81
搾乳手法	2.32	2.18	2.51	0.33
飼養管理	2.40	2.04	2.89	0.85
体細胞数(万/ml)	19.10	25.63	10.39	

- 優を3点、要改善を1点として点数化
- 搾乳手法から飼養管理まで20項目を分野別に集計

☆体細胞数が高い農家と低い優良農家とで比較すると、搾乳手法については差が少ない

[同じ農場内の牛で比較すると、当然ながらきれいな牛は体細胞数が低い]

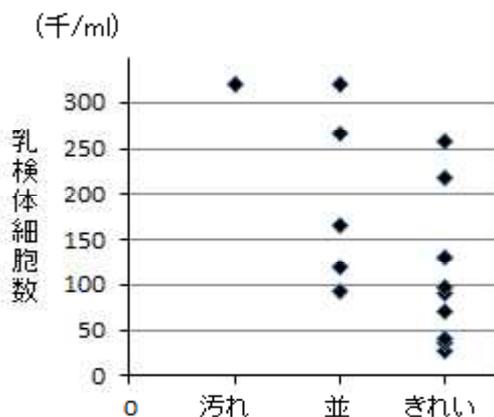


図 1 牛体の汚れと体細胞数

表 2 牛体の汚れと体細胞数

	乳検体細胞数(千/ml)
3点牛平均 きれい	110
2点牛平均 並	193
1点牛平均 汚れ	1,697

以上の結果に加え、搾乳立会では乳頭清拭が不十分で体細胞数が低い農場は有りませんでした。

このことから、『乳頭清拭が確実に実施できれば、体細胞数は削減できる』と仮説を立てて乳質改善に取り組みました。

A農場：

- 乳頭清拭をバケツ洗いタオルから1頭1布に変更

B農場：

- 乳頭清拭を徹底する
特に乳頭口周りを徹底

結果

☆検定成績による体細胞数比較 (千/ml)

	立会前	立会后
A農場	172千/ml	132千/ml
※ 立会前後1年間平均の成績		
B農場	133千/ml	73千/ml
※ 立会前後5カ月間平均の成績		

【調査でわかったこと】

- 乳頭清拭は、乳頭口付近が特に重要
- 乳頭口付近が汚れていれば、当然乳房内に菌が入りやすく、搾乳作業で新規感染すると推測できる

★ 乳頭側面の清拭のみでは、清拭後も乳頭口に菌がいっぱい残っている！ (右写真参照)



清拭前(左)と清拭後(右)の乳頭口細菌検査